

利尻島におけるケアシノスリの記録 2 例

佐藤雅彦¹⁾・小杉和樹²⁾

¹⁾ 〒 097-0311 北海道利尻郡利尻町仙法志字本町 利尻町立博物館

²⁾ 〒 097-0401 北海道利尻郡利尻町杓形字富士見町

Two Records of Rough-legged Buzzards from Rishiri Island, Northern Hokkaido

Masahiko SATO¹⁾ and Kazuki KOSUGI²⁾

¹⁾Rishiri Town Museum, Senhoshi, Rishiri Is., Hokkaido, 097-0311 Japan

²⁾Fujimi-cho, Kutsugata, Rishiri Is., Hokkaido, 097-0401 Japan

Abstract. An emaciated rough-legged buzzard, *Buteo lagopus*, was rescued by members of the Do-hoku branch of the Wild Birds Society of Japan in southern Rishiri Island, northern Hokkaido in October 2011. Although this species was recorded by Kosugi (2008) as new from the island, his observational data has not yet been published. The detailed observational data of Kosugi (2008) is also shown in this report.

ケアシノスリ *Buteo lagopus* (Pontoppidan, 1763) は主に冬鳥として日本に渡来し、北海道内では浜頓別、札幌、鶴川、羅臼などで観察されている(藤巻, 2010)。道北地域のサロベツ原野では、11月中旬から下旬が渡りのピークであり、越冬する個体もいるが、その渡来数は減少しているとされる(富士元, 2005)。

利尻島におけるケアシノスリの記録は既にリストとして公表されているが(小杉, 2008)、その観察記録はこれまで公表されてこなかった。本報告では、小杉(2008)における記録の詳細と、2011年10月に利尻島南部で保護されたケアシノスリの記録をあわせて記すものである。

報告にあたり、保護に関してお世話になった山本貴之さん(稚内自然保護官事務所・アクティブレンジャー)、佐藤里恵さん(日本野鳥の会道北支部)、大矢綾子さん(北海道宗谷総合振興局環境生活課自然環境係)、英文校閲の Ronald L. Felzer さん(Merritt College, U.S.A) にお礼申し上げる。

小杉(2008)の観察記録

小杉(2008)による観察記録は目視によるものだけで写真記録はないが、その詳細は以下の通りである。

観察は、2005年12月19日の午後2時頃、筆者の一人小杉が利尻島南西部の長浜地区を車で移動している時にカラスに追われる猛禽類を見つけ、車を停止して双眼鏡で飛翔中の個体を下から観察した。この個体は体下面の特徴ある模様と尾羽の黒帯によりケアシノスリと識別されたが、その後、北方へカラスに追われながら飛び去った。その一時間後、西側の神居地区の海岸沿いを車で移動中に、再びカラスに追われて飛ぶケアシノスリを観察した。間もなく海岸側の電柱に止まった後、海岸の岩場に降りて行き、一旦その姿を見失ったが、再度道路の山側の平地に降りている姿を観察した。廻りに15羽くらいのカラスが群れで騒ぎ、しばらくして飛び立ったケアシノスリの脚にはホンダイタチが掴まえられていて、執拗にカラスが追い続けていると、突然オジロワシが現れ、ケアシノスリが掴んでいたホンダイ



Figures 1-7. *Buteo lagopus* captured at Kiyokawa, Rishiri Island in October 2011. 1: frontal view, 2: under side of left wing, 3-4: tail, 5: upper side of left wing, 6: lateral view, 7: back side.

タチを上空で奪っていった。その後、餌を無くしたにも拘わらず、カラスが更に追いかけて、ケアシノスリは北方へ飛び去った。

本観察は、利尻島における初めてのケアシノスリの確認例であった（西村，1963；小杉，2000，2003）。

2011年10月の保護記録

2011年10月3日の午後1時頃、第一発見者である山本貴之さんが利尻富士町鬼脇字清川付近の車道にて、カラスに追われながら飛翔している猛禽類1羽を発見した。その後、この猛禽類は車道脇に降りたものの、カラスに囲まれたまま動けずいたため、カラスによる攻撃を防ぐために山本さんがおよ

そ1メートルのそばまで近寄り、見守ることとした。しかし、この個体はその後にも飛翔できず、筆者の一人佐藤に連絡があり、保護することとなった。保護時は抵抗もなく、竜骨突起も突出しており、痩せた個体と感じられた。外傷、首のふらつき、極端な衰弱、外部寄生虫の寄生、排泄物の変化などは見られなかったため、安静にした後、市販品の鶏の心臓を強制採餌した。保護の翌日からはエサを自力で食べるようになり、その後、保護ゲージに飛び上がるなど体力も回復しつつあったため、天候が回復した4日後の10月7日に放鳥した。放鳥翌日には放鳥現場付近を飛翔している姿が確認されたので、その後、自力で移動をしていったものと思われる。保護個体に見られた特徴は以下のとおりである。

頭部および胸は白色で茶褐色の縦斑が認められ、特に胸は太い縦斑が多く見られる (Fig. 1, 7). 虹彩は茶色で、ろう膜および脚は黄色。背面 (Fig. 7) は灰白色の羽縁を持つ茶褐色の羽毛で覆われ、腹部および腰 (Fig. 1) は茶褐色を呈する。肩羽 (Fig. 7) は、黒褐色の細い羽軸と幅の広い暗褐色の軸斑、クリーム色の羽縁からなる。翼表面 (Fig. 5) は茶褐色で、小・中・大雨覆と次列風切の一部に白い羽縁が見られた。初列風切の外側5枚の内弁先端は黒色で、基部は白色を呈する。それ以降の初列風切と次列風切の白色の内弁には黒褐色の横帯が3~4個認められ、その外弁は暗褐色となる。横帯のうち羽の先端部に位置するものは不明瞭ながら幅が広く、羽縁を縁取るように見える。翼裏面 (Fig. 2, 6) は白色で、初列風切の先端が黒から黒褐色を示すとともに、次列風切に向かうにつれ色が淡色に変化し、翼の縁が薄い灰褐色で縁取られる。また、翼角は薄い黒色から褐色の斑をなす。下雨覆の羽軸には褐色の軸斑が認められた。尾羽にかかる上尾筒 (Fig. 4) の長い羽は白色で、その先端には菱形の暗褐色の軸斑が見られた。尾羽表面 (Fig. 3, 4) の基部半分は白色で、その先端には次のような黒褐色と暗褐色~灰褐色の不明瞭な横縞が認められる。外弁部の先端は黒褐色から暗褐色~灰褐色へと色が変化する大きな斑が広がり、内弁先端付近には黒褐色の横帯が暗褐色~灰褐色の中に2~3本認められる。この横帯の一部には、先端部と2番目のものが時に斑が軸に沿ってつながるなど不明瞭であり、横帯の基部側に近い場所の軸の近くにさらに1~2個の黒褐色の小班もみられる。尾羽の裏面 (Fig. 1) はほぼ白色で、先端部分に灰白色と暗灰色の斑が見えるが、そのコントラストは非常に薄い。

本個体は、翼上面から見た初列風切基部が白く、尾の先端近くに前後の縁に暗色を帯びた著しく幅の広い灰褐色の帯が確認されないことなどから、亜種

ケアシノスリ *B. l. menzbieri* に該当するものと思われる (森岡ほか, 1995)。また、(1) 上尾筒の長い羽の先端部の模様は、細い横帯とならず、水滴もしくは矢印形の斑点を持つこと、(2) 翼下面の後縁の黒帯の輪郭が不明瞭で、2~3本目の横帯は破線状に見えること、(3) 初列風切羽が一様に見えること、などの幼鳥の特徴が見られたものの、本種の性別や年齢の識別点には様々な説があり (山階, 1941; 森岡ほか, 1995; 叶内, 1998)、未計測個体でもあり、性別・年齢については本稿では保留とした。

参考文献

- 藤巻裕蔵, 2010. 北海道鳥類目録改訂3版. 極東鳥類研究会. 美唄. 74pp.
- 富士元寿彦, 2005. 原野の鷲鷹. 北海道新聞社. 143pp.
- 叶内拓哉, 1998. 日本の野鳥. 山と溪谷社. 624pp.
- 小杉和樹, 2000. 利尻島における月別鳥類出現リスト. 寺沢孝毅 (編), 北海道 島の野鳥: 150-155. 北海道新聞社. 札幌.
- 小杉和樹, 2003. 利尻島の野鳥リスト. 利尻島自然情報センター. 自刊.
- 小杉和樹, 2008. 利尻島の野鳥リスト. 利尻島自然情報センター. 自刊.
- 森岡照明・叶内拓哉・川田 隆・山形則男, 1995. 図鑑 日本のワシタカ類. 文一総合出版. 東京. 632pp.
- 日本鳥類目録編集委員会, 2000. 日本鳥類目録. 改訂第6版. 日本鳥学会, 京都. 345pp.
- 西村 弘, 1963. 利尻礼文島野鳥棲息状況調査記録. 自刊. 24pp.
- 山階芳麿, 1941. 日本の鳥類と其生態第2巻. 岩波書店. 東京. 1080pp.